

## 2023 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

|                                       |             |             |
|---------------------------------------|-------------|-------------|
| 所属学部 学科                               | 職位          | 氏 名         |
| 教育学部 子ども発達学科                          | 教授          | 水野 伸子       |
| 最終学歴                                  | 学 位         | 専門分野        |
| 京都市立芸術大学大学院 音楽研究科 音楽学領域<br>博士（後期）課程修了 | 博士<br>（音楽学） | 音楽心理学、音楽教育学 |

### I 教育活動

#### ○理念・目標・方針・計画（方法）

##### 【理念】

保育や教育現場の今日的課題に対応できる知識・技術および論理的思考力の育成

##### 【目標】

- ① ICT を活用した音楽教育の手法を開発する
- ② 論理的に思考し記述する能力を育成する
- ③ 学生の音楽表現活動を保育現場等で行い実践力を育成する

##### 【方針】

音楽の授業科目全てにおいて、音楽的な表現力と論理的思考力とをバランスよく育成する。

##### 【計画（方法）】

ICT を活用した授業においては、DAW ソフト GarageBand を用いて DTM による音楽編集を行う。昨年度に作成したソフトの使い方から音楽編集までの手順や音楽的なヒントを入れたマニュアルを改善するとともに、DTM と実際の演奏を比較分析することによって特徴や良さに気付かせる授業を行う。

ゼミでは「背景・目的・方法・結果・考察・結論」という論文形式でレポートの作成を、word の諸機能を使って行う作業を繰り返すことにより、論理的思考力とパソコンの活用力を育成する。

表現力の育成を目的に音楽の楽しさを伝える演奏を含めたワークショップを計画し保育現場等で実践し、そこでの観察を基に子どもの反応を分析し考察することにより、子ども理解を深めるとともに論理的思考力を育成する。

##### 【担当科目】

（前期）

音楽と社会、音楽科教育法、音楽基礎、音楽表現技術特別演習、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、幼児と音楽表現

（後期）

専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究、保育内容（音楽表現）

#### ○教育方法の実践

##### ① ICT を活用した音楽教育の手法を開発

名古屋市の小学校ではタブレットが小学校1年生から1人1台支給され授業で活用されていることを踏まえ、「音楽科教育法」の授業では小学校で使用されている音楽編集ソフト GarageBand を用いて合奏編曲に取り組んでいる。今年度は特に自作の音楽編集マニュアルに以下2点の修正をして取り組んだ。初期作業時の打ち込みと完成段階時の編集に分けてマニュアルを整理したことと、アレンジの工夫例として学生の作品を解説しながら紹介し改善点を事例で示したことである。マニュアルがわかりやすくなり多くの学生が自分の力で作業を進めることができた。紹介した学生の多くの作品事例はドラムのリズムアレンジに工夫がみられ、楽器を演奏することに苦手意識を持つ学生も自分の感覚

を発揮して編集することが可能であることを実感する機会となった。全員の学生が意欲を持って取り組み、作品を完成させることができた。

## ② 論理的に思考し記述する能力の育成

特に「専門演習Ⅰ，Ⅱ」「専門演習Ⅲ，Ⅳ」の授業で取り組んだ。「専門演習Ⅰ，Ⅱ」では、レポートや論文の最小単位である段落の構成を身につけることを目的に「200字作文」に取り組んだ。1段落を200字とし、文章を「話題の提示または結論」「補強（説明，原因，事例）」「まとめ，結論」という3段階で構成する方法で、テキストを配布しそれに沿って作成するトレーニングを頻繁に行った。提出されたものは随時添削して返し改善点を示した。

## ③ 学生の音楽表現活動における実践力の育成

「専門演習Ⅲ，Ⅳ」で、今年度は名東保育園と八事山興正寺（名古屋市）においてゼミ生による子ども向け音楽会を開催することができた。サクソフーンやホルンなどの金管楽器や三味線の和楽器および手作り楽器による演奏，パソコンを用いたDJプレイ，ダンスなどから学生がそれぞれに自分の得意なことを活かしてプログラムを構成した。課題は「個人の演奏技術の鍛錬と音楽性の追求」と「子ども達が音楽を楽しむ工夫」であった。楽器練習は下宿等の狭いところではできないためゼミ以外の時間に何度も教室を借りて集まり練習が行われ，子どもたちへ配布する手作り楽器の制作とその使い方も試行錯誤が繰り返された。学生のモチベーションには差が認められ，維持するための精神的なサポートに苦勞をした。その他，教員は楽譜のアレンジ，楽器の独奏や合奏のピアノ伴奏を担当し学生の演奏を補助した。

## ○作成した教科書・教材

「音楽基礎」：段階ごとの演奏動画教材

「音楽科教育法」：DTMによる音楽編集マニュアル

## ○自己評価

各目標ごとに自己評価を行う。①について，タブレットによる音楽編集は，楽器の熟達度と比例することなく学生の音楽性を耕やすツールであることが授業実践から確認された。タブレットによる音楽編集は音楽理論指導にも効果的に働くことが示唆され，次年度は授業の中でICTを用いた指導に取り組んでいきたい。②の200字作文実践について，当初は多くの学生が段落を意識せず，1つの段落にいくつもの話題を盛り込もうとしたり，説明が長すぎて200字を大幅に超えてしまったりした。このように段落の構成に対する意識が低かった学生も，次第に200字でまとめられるようになった。しかし，構成についてはまだまだ習熟したとは言えず，論文執筆の基本である段落構成の継続した指導が必要である。

③について，学生による音楽会は参加者に変化がもたらされたことから，課題に挙げた2点についてある程度は達成されたと評価できるものの，今後も継続して追求する課題であり指導の工夫を重ね，バージョンアップした音楽会を追求していきたい。音楽会の実践が学生にどのような意識の変化が認められたのかという教育的視点から考察することも必要である。

## Ⅱ 研究活動

### ○研究課題音楽の同期を取る行為がもたらす演奏者－「聴衆」間の相互作用の解析

#### ○目標・計画

##### 【目標】

昨年度までの研究成果を論文にまとめ，国際学会で発表する。

実験手法を検討し実験デザインの決定後に音楽知覚実験を行う。

【計画】

平成 31 年度～令和 4 年度 科学研究費補助金 基盤研究 C（課題番号：19K02769）「音楽聴取時における演奏者-聴取者間の相互作用の解析：拍への同期度による検討」の研究の成果を ICMP17 で発表する。

令和 5 年～令和 7 年度 科学研究費補助金 基盤研究 C（課題番号：23K02420）音楽の同期を取る行為がもたらす令和 5 年度～令和 7 年度 音楽の同期を取る行為がもたらす演奏者－「聴衆」間の相互作用の解析－「聴衆」間の相互作用の解析（研究代表者 水野伸子）が初年度であることから、先行文献を基に実験手法の再検討を行い実験デザインの決定、実験の実施までを行う。

○2016 年 4 月から 2024 年 3 月の研究実績（特許等含む）

（著書）

水野伸子，石井玲子ほか『表現者を育てるための保育内容「音楽表現」』教育情報出版，第 2 章 第 2 節 乳幼児の「表現」の発達特性と発達過程，pp.23-24，

2020 年水野伸子，横井志保ほか『表現（新・保育実践を支える）』福村出版，pp.81-87，2018 年

（学術論文）

Nobuko Mizuno，Minoru Tsuzaki，Effects of Auditory Feedback on the Synchronization between a Performer and the Audience，*The 17th International Conference on Music Perception and Cognition e-Proceedings*，pp. 198-203，2023.

水野伸子「演奏者と聴衆の間の同期の解析：音響情報の双方向性がもたらす効果」令和 4 年度博士論文，京都市立芸術大学大学院（全 105 ページ），2022 年度

水野伸子，津崎 実「演奏者と『聴衆』間の聴覚情報の双方向性が同期に与える影響」（査読有），音楽知覚認知研究 28(1)，日本音楽知覚認知学会，pp.3-19，2022 年度

水野伸子，津崎 実「演奏者と「聴衆」間の聴覚フィードバックの有無による手拍子同期の比較」情報処理学会研究報告 Vol.2022-MUS-134 No.9(IPSJ SIG Technical Report, Vol.2022-SLP-142 No.9) pp.1-6，2022 年度

水野伸子，津崎 実「拍知覚における演奏者－聴取者間相互作用の解析」日本音楽知覚認知学会令和 1 年度秋季研究発表会資料，日本音楽知覚認知学会，pp.55-58，2020 年度

水野伸子，津崎実「幼児期における拍知覚の発達：同期度による検討」（査読有）音楽教育学第 49 巻第 2 号，日本音楽教育学会，pp.1-12，2019 年度

水野伸子，津崎 実「幼児期における拍知覚の発達：同期度による検討」日本音楽知覚認知学会平成 30 年度秋季研究発表会資料，pp.78-81，2018 年度

水野伸子「生演奏と DVD 再生演奏による音楽聴取時における手拍子同期の解析比較」（査読有）音楽教育学第 47 巻第 2 号，日本音楽教育学会，pp.13-24，2017 年度

水野伸子「「9 歳の壁」論と学童期における音楽的発達との関連-音楽聴取時の手拍子解析から-」（査読有）同朋大学論叢第 101 号，pp.21-40，2016 年度

（学会発表）

水野伸子，津崎 実「演奏者と聴衆の間の同期：制御機構に注目して」日本音楽教育学会第 54 回大会（弘前大学），2023 年度

Nobuko Mizuno, Minoru Tsuzaki, Effects of Auditory Feedback on the Synchronization between a Performer

and the Audience, The 17th International Conference on Music Perception and Cognition, The College of Art, Nihon University, Japan, August 24-28, 2023.

水野伸子, 津崎 実「演奏者と「聴衆」間の同期に曲による違いが生じる要因の検討」日本音楽教育学会第 52 回大会 (ZOOM 開催), 2022 年度

水野伸子, 津崎 実「演奏者と「聴衆」間の聴覚フィードバックの有無による手拍子同期の比較」音学シンポジウム 2022 (第 131 回音楽情報科学研究会・第 137 回音声言語情報処理研究会共催研究会), 2022 年度

水野伸子, 津崎 実「演奏者と「聴衆」間の聴覚情報の双方向性が同期に与える影響」第 32 回音楽の科学研究会, 2022 年度

水野伸子, 津崎 実「音楽聴取時における演奏の拍と聴取者の手拍子による相互同調の分析」日本音楽教育学会第 51 回大会 (ZOOM 開催) 2021 年度水野伸子, 津崎 実「拍知覚における演奏者－聴取者間相互作用の解析」日本音楽知覚認知学会令和 1 年度秋季研究発表会 (ZOOM 開催), 2020 年度

水野伸子, 津崎 実「音楽聴取時における演奏者－聴取者間の相互作用による同時性の解析」日本音楽教育学会第 50 回大会 (ZOOM 開催), 2020 年度

水野伸子, 津崎 実「拍知覚における演奏者－聴取者間相互作用の解析」日本音楽知覚認知学会令和 1 年度秋季研究発表会 (ZOOM 開催), 2020 年度

Nobuko Mizuno, Minoru Tsuzaki, The Perception of the Musical Beat among Japanese Young Children: Aspects of the Degree of Synchrony, International Symposium on Performance Science, Melbourne Conservatorium of Music, 2019 July 19.

水野伸子「幼児期における拍の知覚発達：音楽聴取時の手拍子同期度による検討」日本音楽教育学会第 48 回大会 (岡山大学), 2018 年度

水野伸子, 津崎実「幼児期における拍知覚の発達：同期度による検討」日本音楽知覚認知学会平成 30 年度秋季研究発表会 (龍谷大学)

水野伸子, 植田恵理子, 寄ゆかり, 本多峰和「アクティブ・ラーニングの導入には何が必要か：音楽表現活動の可能性」日本保育学会第 69 回大会 (東京学芸大学), 2016 年度

Nobuko Mizuno, Musical Enculturation through the Acquisition of Key and Harmonic Knowledge in Japanese Preschool Children The 17 PECERA Annual Conference 2016 (Pacific Early Childhood Education Research Association) (Chulalongkorn University)

水野伸子, 安藤久夫, 吉田昌春, 福本徹「タッピングと手拍子による音楽同期反応の解析比較」日本教育工学会第 32 回全国大会 (大阪大学), 2016 年度

水野伸子「幼児の調性感・ハーモニー感獲得にみる音楽的文化」日本音楽教育学会第 47 回大会 (横浜国立大学), 2016 年度

(その他)

○科学研究費補助金等への申請状況, 交付状況 (学内外)

令和 5 年～令和 7 年度 科学研究費補助金 基盤研究 C (課題番号: 23K02420) 音楽の同期を取る行為がもたらす演奏者－「聴衆」間の相互作用の解析 (研究代表者 水野伸子), 初年度

## ○所属学会

日本音楽教育学会，日本音楽知覚認知学会，日本教育工学会，日本学校音楽教育実践学会，日本保育学会

## ○自己評価

今年度は昨年度末に終了した科学研究費補助金による研究（基盤研究（C）（課題番号 19K02769））と，博士論文の一部の成果を音楽の知覚認知に関する国際学会（International Conference on Music Perception and Cognition）で発表をすることが最大の目標であった。研究に対しアメリカやカナダを中心とした海外の研究者と意見交流でき，自身の研究のセールスポイントと今後の課題が明らかになった。さらに，拍や同期といった同じ題材を扱った最新の研究に触れ示唆を得ることもできた。以上が成果である。今年度から始まった科学研究費補助金による研究（基盤研究C（課題番号：23K02420））では，この成果を活かして研究方法の見直しを行なった。そのため，実験デザインを決定し実験の実施まで行うことができなかったことが課題である。次年度に継続して研究を進めていきたい。

## Ⅲ 大学運営

### ○目標・計画

#### 【目標】

教育学部執行部の一員として，学部長をサポートし学部の円滑な運営に寄与できるように努める。入試委員会の副委員長として，大学の入試業務を遂行する。大学で充実した学生生活を送り勉学に励もうとする意識のある学生の入学を推進する。

#### 【計画】

執行部の一員として，学部の円滑な運営および将来の学部構想に関し，頻繁に行われる執行部会に出席し学部長・学部長補佐と協議する。入試委員会の仕事としては年間を通しての入試業務，大学共通テストのサポート業務を行う。

### ○学内委員等

教育学部執行部，幼小教職課程・保育士養成部会，入試委員会

## ○自己評価

教育学執行部の一員として，大学再編準備室の会議で協議に積極的に参加するなど学部長を中心とした円滑な学部運営に努力した。入試委員会副委員長として筆記試験の主監督業務，A0 入試小論文の問題作成や採点業務を行うなど入学試験が円滑に運営されるように努めた。

## Ⅳ 社会貢献

### ○目標・計画

#### 【目標】

保育者・教育者の研修会の講師など，研究成果を社会へ還元する。

#### 【計画】

保育士資格試験採点委員（7 月，12 月）

### ○学会活動等

7 月と 12 月に名古屋芸術大学で実施された保育士資格試験の採点委員を務めた。

○地域連携・社会貢献等

○自己評価

全国保育士試験において採点委員を務め僅かながらも貢献することができた。

V その他の特記事項（学内研究，受賞歴，国際学会交流，自己研鑽等）

科学研究費補助金による研究（基盤研究（C）（課題番号 19K02769））および博士論文の一部の成果を音楽の知覚認知に関する国際学会（International Conference on Music Perception and Cognition）でポスターにまとめ発表をした。

VI 総括

今年度は昨年度までの研究（基盤研究（C）（課題番号 19K02769））の成果を国際学会で発表し研究交流することが主目的であった。この点については十分に達成できたものの，今年度から始まった研究（基盤研究 C（課題番号：23K02420））の開始が遅れた。次年度以降に継続し，音楽知覚認知に関する研究を進め，その成果を授業へ還元していきたい。

以 上